

やるときはやる 母のような人 になりたい

佐藤 美紗子さん

石越町第十区・23歳（会社員）

「自分の夢は？」と質問されたとき、はっきり言って全然思いつきませんでした。学生のころとは違い、現実味のない話はなかなか口にしなくなっていました。しかし、今回あらためて「自分の夢は何だろう」と考えたとき、夢というよりも「目標」と思えるものがありました。

一つ目は仕事です。最近はとても忙しく、覚えることがたくさんあり、すごく辛い気持ちになっています。それでも職場の先輩などに、自分の仕事の合間に一緒に考えてもらったり、手伝ってもらったりして、大変助かっています。その人たちの期待に応えられるよう、一生懸命頑張って勉強しなければいけないと思っています。

二つ目は友達です。過去を振り返ると今までいつも同じメンバーで遊んでいました。新しい友達も大切ですが、昔からの友達が自分にとってすごく大きな存在で、いつも支えてもらってきたことに気付きました。そんな友達とこれからもずっと、このままの関係でいられたらいいなと願っています。

三つ目は母です。一緒に映画を見たり、買物に行ったりする友達のような母です。仕事に関しても責任感がありとてもまじめなので、母を尊敬しています。わたしも遊ぶときは遊ぶ、やるときはやる、母のような人になりたいと思っています。



佐藤 雄亮くん

豊里町横町・11歳（豊里小5年）

ぼくの夢は習字の先生になることです。ぼくは、3年生まで字をきれいに書くことができず、わくからはみ出してばかりいました。そのころのぼくには、字をていねいに書こうという気持ちさえなかったのです。

そんなぼくは、3年生から習字教室に入りました。練習のときには、足がしびれてもがまんして、ていねいに書くようにしました。すると、4年生ころからだんだんうまく書けるようになり、今は字の形がととのってきました。習字教室の先生からも、「少しずつ成長してきているね」といわれています。だから、ぼくはふだんの授業でノートに書くときにも、きれいな字で書くように心がけています。字を書くときは、はねの方向をしっかりと考えて書いたり、中心線を意識して書いたりしています。

字をきれいに書くと、本当に気持ちが良くなります。晴れた空のように心がすっきりします。友達や先生から字をほめられると、自信もわいてきます。

字をきれいに書くということは、自分をみがくということです。ぼくはこれからも字をきれいに書いて、まっすぐな「たてま」のように素直な人間になりたいです。そして、いつの日か習字を教える先生になって、字をきれいに書くことの大切さ、すばらしさをたくさんの人に伝えていきたいと思っています。

習字の先生に なって字の大切 さを伝えたい

一人で新幹線に 乗って東京のい とこのところへ

塚本 絵美さん

登米町後舟橋・11歳（登米小5年）

わたしが今年頑張りたいことは、算数と英語と習字です。算数と英語は、学習じゅくに通って勉強をしています。算数はE段階まで進んでいますが、G段階まで進みたいと思っています。英語はまだ始めたばかりなので、E段階まで進むことができればいいなと思っています。

習字は、習い始めて3年になります。でも、まだ優級なので今年は一先けん命練習して、できれば三段になりたいと思います。

学校生活は、小学校最後の学年になります。勉強や運動はもちろんのこと、いろいろな行事に積極的に参加して、下級生の面どうをしつかりと見たいと思っています。

家ではまず、勉強を自分から進んでやりたいと思います。それから、お母さんやお父さんが帰ってくる前に、自分でできるお手伝いをやりたいと思います。

最後に、今年ぜひチャレンジしたいことが一つあります。それは、おこづかいをためて、自分一人だけでいところに住んでいる東京へ新幹線に乗って遊びに行くことです。一人で新幹線に乗ることは不安ですが、自分で考えて行動できるようになりたいと思っています。

今年一年を健康に過ごし、勉強や遊び、いろいろな行事などに、自分なりに一生けん命に取り組み、充実した楽しい一年にしたいと思っています。



亥

わたしたちの

夢・未来

今年のえと「亥（いのしし）」にちなみ、市内の年男、年女の皆さんから
今年の抱負や将来の夢などを聞きました。